

優秀賞

高校生部門〈いじめの克服〉

鹿児島県立武岡台高等学校 1年

瀬戸口 芽依

笑って進む

私が今を生きているのは、おそらく、自分がどうやって生きていくかを決めているからである。

私が中学一年生のとき、ある日を境に一人になった。みんなで私を無視しはじめた。理由は知らない。突然はじまったことだった。

何度左手首にカッターナイフを当てようとしたことか。先生に相談しても何も変わらない。むしろ、悪化するばかりだった。それによって何度心壊されたことか。

そんな中学校、一年目をなんとか生き延びてきた。そんな一年間を通じて、まずは自分で自分を傷つけないようにする。そして、無理に他人と関わらず、疑うことから始める。その二つを学んだ。

そして中学二年生になると、私は一年生のときに関わっていた人を避け、その当時の記憶をなかったことにするようにした。後からこれは歪んだやり方であったことを知ったが無理にでも自分を守る方法を選んでいった。精神的には一年生のときほど辛くなかったが無理矢理他人を避けていたことであり、結局は一人でいることになってしまっていた。

三年生になると、少し心を開いて、他人と関わるようになった。幸い、一年生のとき関わっていた人物はおらず、さらにみんなが優しくしてくれたおかげで、大破していた心はだいぶ傷を癒すことができた。常に一緒という人物はいなかったが、自然に笑うことができるくらいまでに修復していた。

そんな三年間を通して、何より大切なことがわかった。何があっても、笑って進むこと。作り笑いでも構わないから、とにかく笑って進むこと。それが三年間で手に入れた、私だけの、これからの未来を生き抜く力、そして私の生き方だ。

今日も笑って、明日へ。